

4

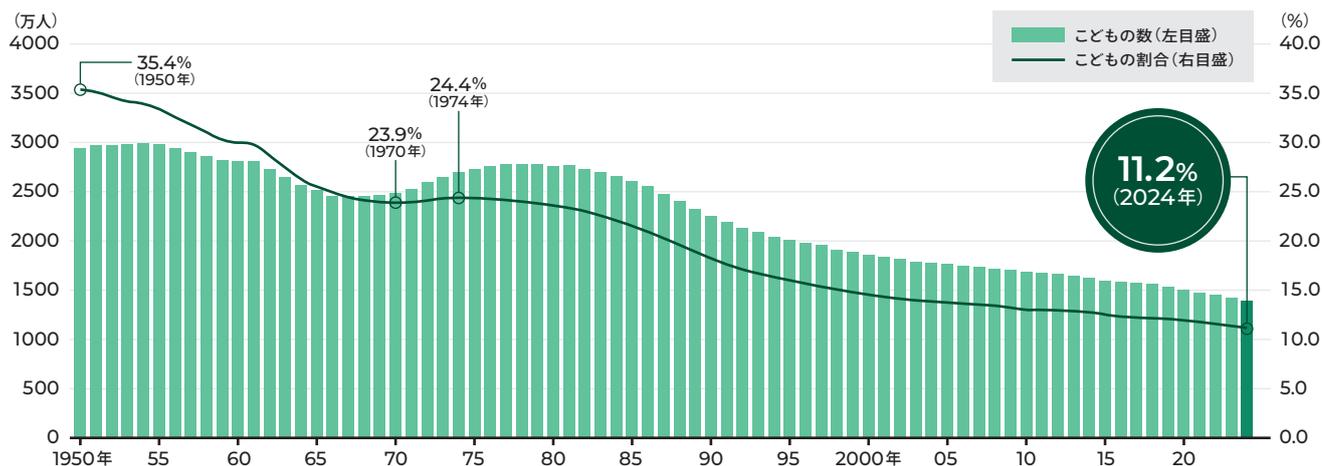
こどものようす

こどもの割合は11.2%、50年連続の低下

こどもの数及び割合の推移(1950年～2024年)

総人口に占めるこども(15歳未満人口。以下同じ。)の割合は、1950年には35.4%と総人口の3分の1を超えていましたが、第1次ベビーブーム期(1947年～1949年)後の出生児数の減少を反映し、1970年には23.9%まで低下しました。

その後、第2次ベビーブーム期(1971年～1974年)の出生児数の増加によって僅かに上昇し、1974年には24.4%まで上昇したものの、1975年から再び低下を続け、2024年は11.2%と、50年連続の低下となりました。



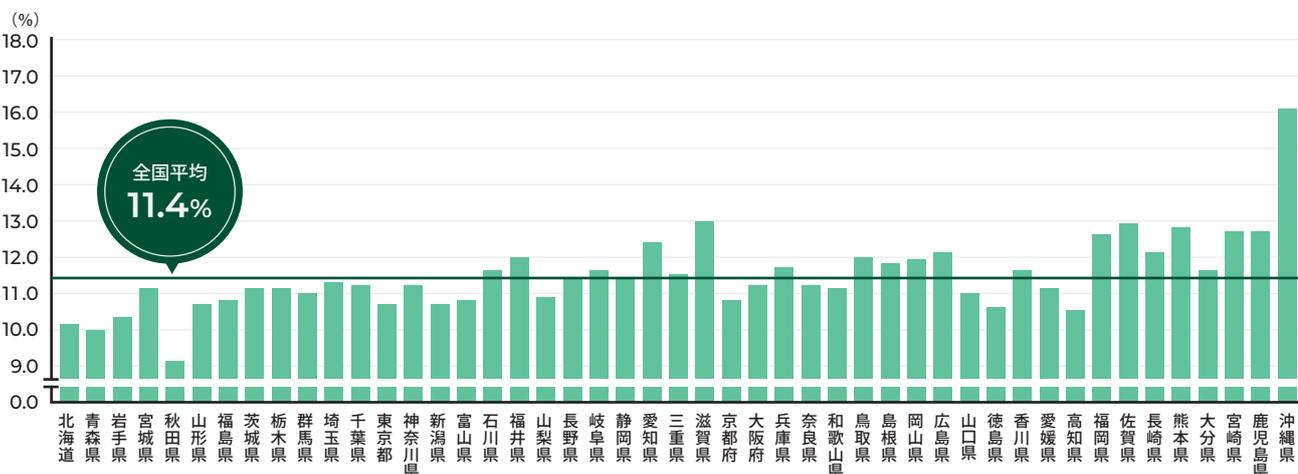
資料：「国勢調査」及び「人口推計」

こどもの割合は沖縄県が最も高く16.1%

都道府県別こどもの割合(2023年)

都道府県別人口に占めるこどもの割合は、沖縄県が16.1%と最も高く、次いで滋賀県が13.0%、佐賀県が12.9%などとなっています。

一方、秋田県が9.1%と最も低く、次いで青森県が10.0%、北海道が10.1%などとなっています。

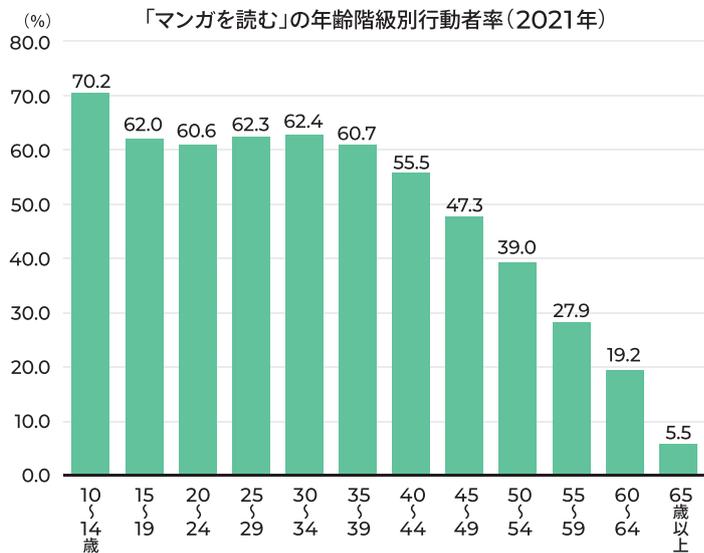


資料：「人口推計」

「マンガを読む」の行動者率は10～14歳が70.2%と最も高い

10～14歳の趣味・娯楽に関する行動者率(2021年)

「マンガを読む」の行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が70.2%と最も高く、およそ4人に3人がマンガを読んでいたといえます。また、趣味・娯楽の種類別行動者率をみると、10～14歳では「マンガを読む」は「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」に次いで2番目に高い行動者率の種類となっています。



資料：社会生活基本調査結果

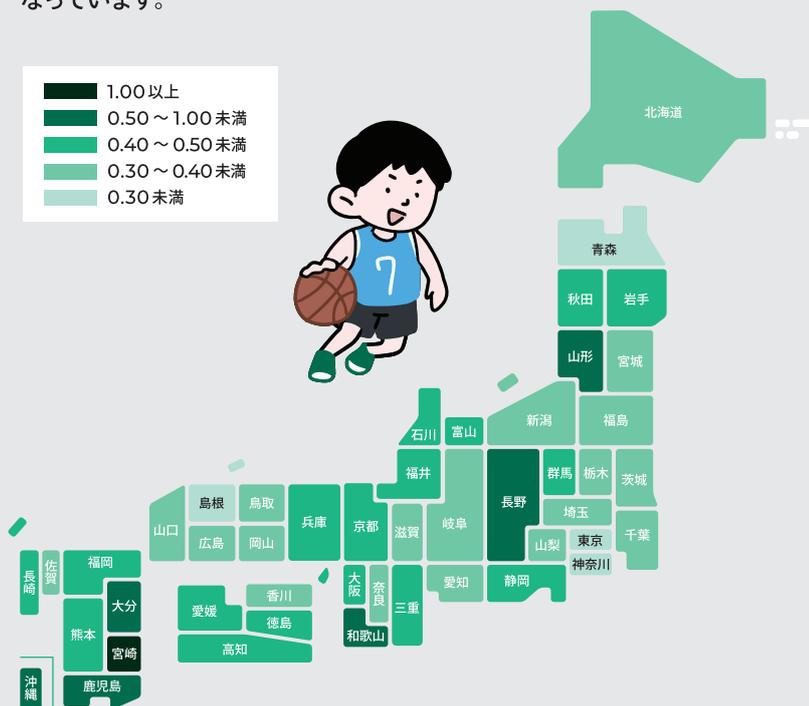
趣味・娯楽の種類別行動者率(10～14歳) 上位10種類(2021年)

順位	種類	行動者率
1	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム	79.7%
2	マンガを読む	70.2%
3	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	67.4%
4	映画館以外での映画鑑賞(テレビ・DVD・パソコンなど)	66.8%
5	映画館での映画鑑賞	52.7%
6	趣味としての読書(マンガを除く)	42.6%
7	遊園地、動植物園、水族館などの見物	29.0%
8	楽器の演奏	27.7%
9	趣味としての料理・菓子作り	27.0%
10	書道	19.7%

10～14歳のスポーツの時間は九州地方で長い

都道府県別スポーツの時間(2021年) - 週全体、10～14歳

10～14歳のスポーツの時間を都道府県別にみると、宮崎県が1時間6分と最も長く、次いで大分県、鹿児島県などになっており、九州地方で長くなっています。一方、東京都、神奈川県が27分と最も短く、次いで島根県、青森県などとなっています。



順位	都道府県	スポーツ時間(時間.分)
	全国	0.37
1	宮崎県	1.06
2	大分県	0.54
3	鹿児島県	0.53
4	長野県	0.52
4	和歌山県	0.52
4	沖縄県	0.52
7	山形県	0.51
8	石川県	0.49
8	徳島県	0.49
10	長崎県	0.48
41	埼玉県	0.32
41	愛知県	0.32
41	奈良県	0.32
44	青森県	0.29
45	島根県	0.28
46	東京都	0.27
46	神奈川県	0.27

資料：社会生活基本調査結果